

元気なコミュニティ100選 本町から3団体が選ばれる

このほど県が選定する「元気なコミュニティ100選」に本町から大浦漁村づくり振興協議会、大沢コミュニティ推進協議会、八千代地区自治会の3団体が選ばれました。1月28日には交付式が役場3階ホールで行われ、宮古地方振興局の水野和彦企画総務部長から各団体の代表に選定書が手渡されました。同100選は、近年地域コミュニティ活動が低下しているといわれる中で、元気に活動する自治会やボランティア団体などをモデルとして選定し、県のホームページや広報誌などで広く県内外に紹介するものです。1月末現在、33市町村77団体が選ばれています。ここでは、100選に選ばれた3団体の活動の様子をご紹介します。



「元気なコミュニティ100選」選定書

地区民の団結力強く 地域総出で事業参加



地区内の清掃活動の様子

大浦地区は、地理的状況などから地域の団結力が強い地域で、古くから独自の自治会づくりを積極的に進めてきました。大浦漁村づくり振興協議会（阿部金一会長）は、健康で明るく豊かな生活環境づくりと郷土発展のため設立され、町内唯一の法人格を持つ地縁団体です。主な取り組みとしては▽大浦小と合同の地区運動会▽地域

内の清掃活動▽郷土芸能の伝承活動——があり、地区民のほとんどが参加して事業が行われています。阿部会長は「少子高齢化が進む中、地域を守るためには普段からの人と人との結び付きを大切にしたい地域の団結力が必要。住民協働の意識を高め、いつまでも輝くことができる地域をつくっていききたい」と話しています。

大浦漁村づくり振興協議会

団体概要 昭和54年8月に大浦区運営委員会として発足。その後平成15年8月に地縁団体の認可を受け、現在の名称に改める。大浦地区318世帯で構成されている。

文化活動を中心とし 自主防災にも力注ぐ



毎年行われる地区演芸大会

大沢コミュニティ推進協議会（昆暉雄会長）は、同地区の地域の教育と文化の向上を目的に結成され、毎年演芸大会や文化祭、伝統芸能の継承活動などを実施。また「殺付きカキ」生産量日本一の生産地として、地区内の町道や公園の清掃、花壇の整備など、地域を挙げて環境美化活動にも取り組んでいます。

活動が活発化し事業が増えつつある同協議会では、効率的な実施のため本年度から5つの自治会に細分化。より地域に根差した活動が期待されています。昆会長は「今後は30年以内に起きるといわれている津波への対策として避難路や一人暮らし世帯を点検し、地域で助け合いができるよう自主防災活動に力を注いでいきたい」と話しています。

大沢コミュニティ推進協議会

団体概要 昭和56年に建設された集会所「ふるさとセンター」の管理運営と地区コミュニティ活動を行うため、同年に結成。大沢地区の715世帯で構成されている。

環境保護意識を高め 充実した活動目指す



リサイクル資源回収活動の様子

創立22年目を迎えた八千代地区自治会（吉川義男会長）は世代間の交流に力を入れており、大人から子供まで一堂に会する行事を企画し、地域でお互い助け合うことができる環境づくりを進めています。また環境保護問題にも取り組み、リサイクル資源の回収を積極的に行っています。そのほかの活動としては▽国道ボランティア

サポートプログラム活動▽集会所「八千代いどばた会館」の管理運営▽豊間根路ウォーキング▽地区内環境整備——などがあります。吉川会長は「リサイクル資源回収活動を続けたことで、地区民の環境を守る意識が高まってきた。この意識が町全体に広がるように、活動をさらに充実したものにしていきたい」と話しています。

八千代地区自治会

団体概要 昭和60年、同地区の町内会「和合の会」が基となり設立。明るく住みよい地域づくりを実践するため、環境問題や世代間交流を中心に活動を行う。八千代地区の79世帯で構成されている。